

第2章

岡山市の現状と課題

- 1 社会経済情勢の変化
- 2 公共交通の現状と課題
- 3 問題の構造

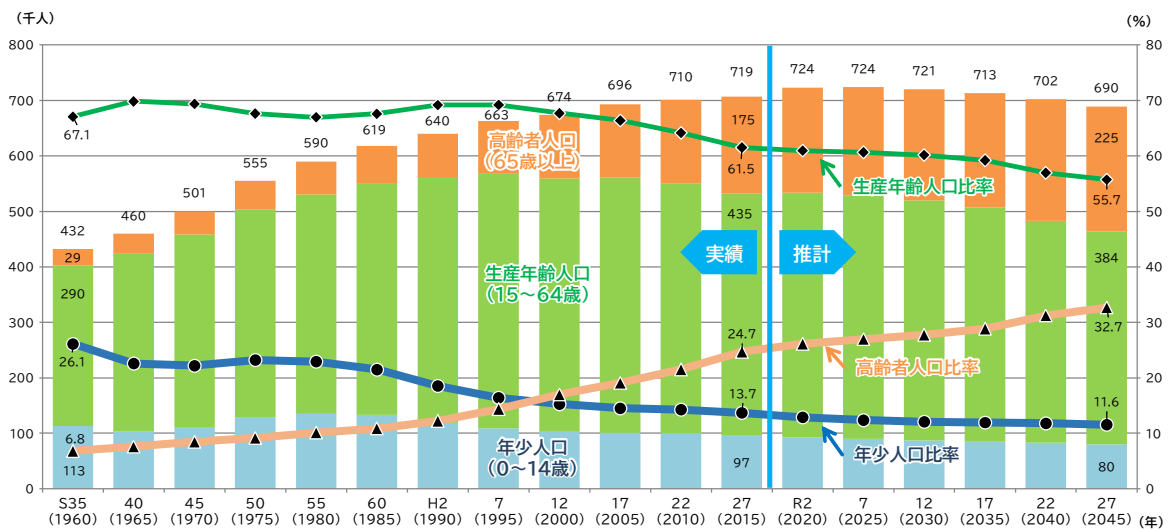
第2章 岡山市の現状と課題

1 社会経済情勢の変化

(1) 人口減少と高齢化の進展

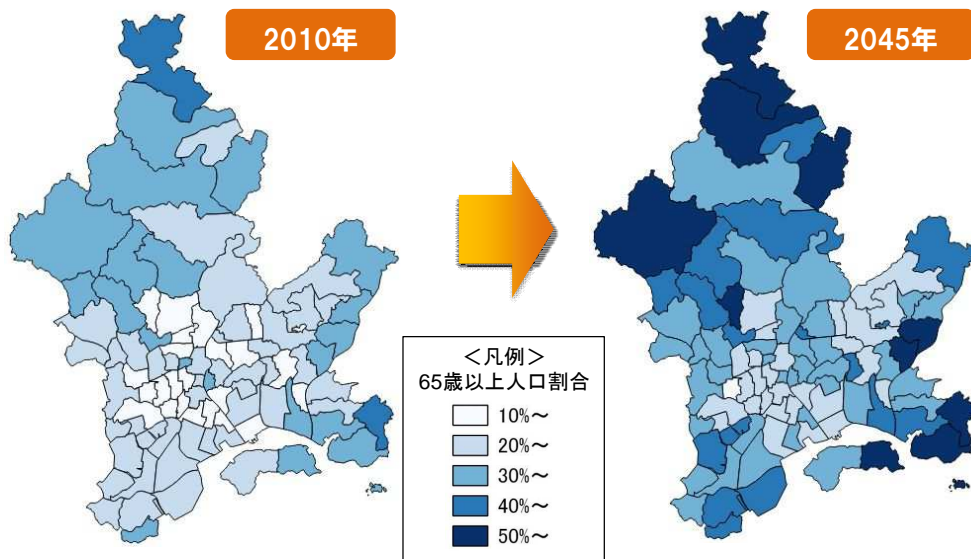
岡山市の人口は、今後20年で約3.5万人減少し、その間に、高齢者（65歳以上人口）は約3万人増加し、高齢化率は33%に上昇することが予測されています（図2-1）。また、周辺部では、都心や都心近郊と比較して高齢化が進行することが予測されています（図2-2）。

今後は、超高齢化社会を見据えた質の高い交通サービスの提供が求められます。



出典：国勢調査(1960年～2015年)、岡山市推計(2020年～2045年)

図2-1 総人口の減少と高齢化



出典：国勢調査(2010年)、岡山市推計(2045年)

図2-2 地域別の高齢化率（現況と将来）

(2) 岡山都市圏の中心市としての役割

岡山市への通勤・通学者の割合が5%以上を占める市町は12市町あり、岡山市を中心とする人口150万人の都市圏を形成しています。

岡山市へ通勤・通学している市外居住者は1日あたり約7万人となっており、日々、市域を跨ぐ広域の交通流動が発生しています。

岡山市は、岡山連携中枢都市圏の中心市でもあり、近隣市町との連携の中で、広域的な観点で交通施策を推進することが求められます。

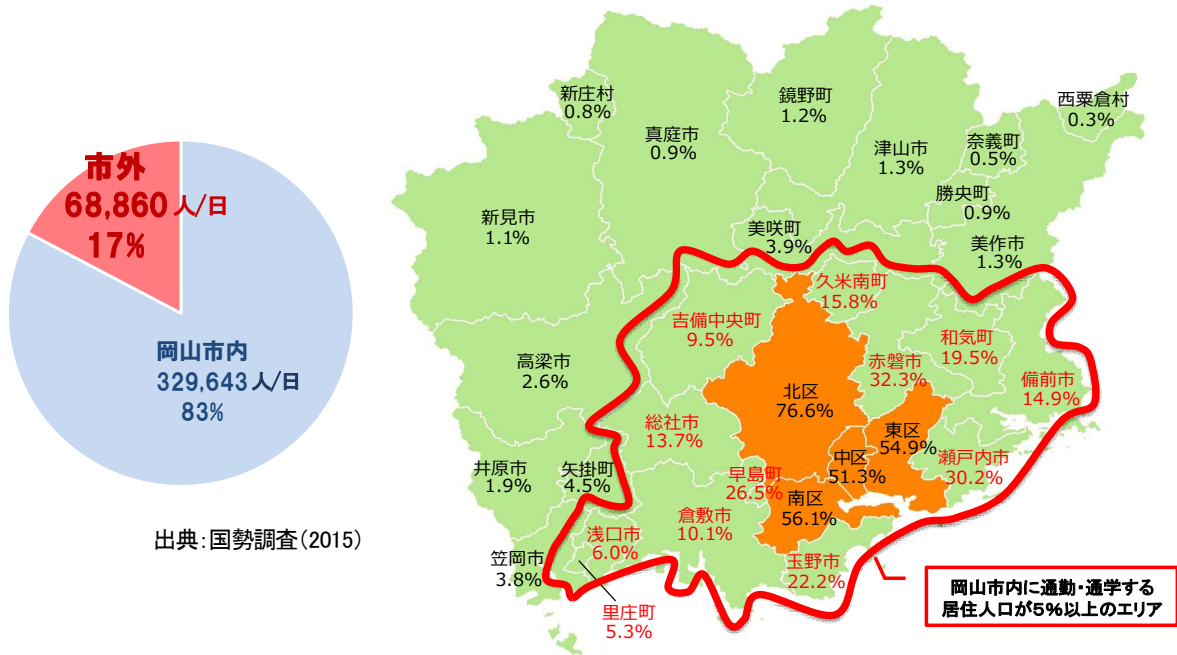


図2-3 岡山市へ通勤・通学する人数・割合

(3) 観光需要への対応

岡山市内の観光客数は、コロナ禍の影響により減少していましたが、2022年には回復に転じています(図2-4)。岡山空港の外国人入国者数も同様に減少していますが(図2-5)、2023年から国際線の運航が再開されたことにより、今後の回復が期待され、活力と創造性あふれる経済・交流都市の実現に向けて、外国人や初めて岡山市を訪れる観光客にとって、移動しやすい交通環境の整備が求められます。

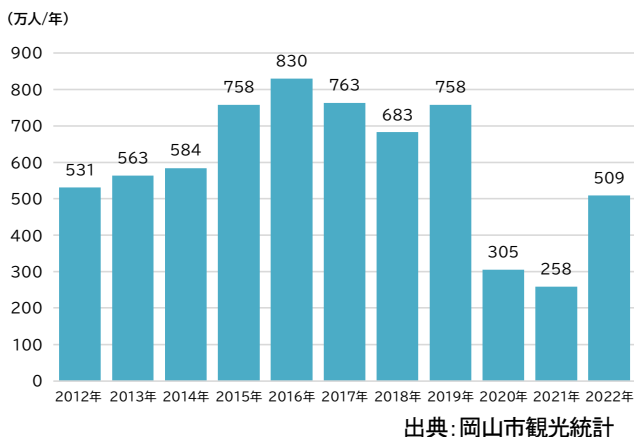


図2-4 市内観光客の推移

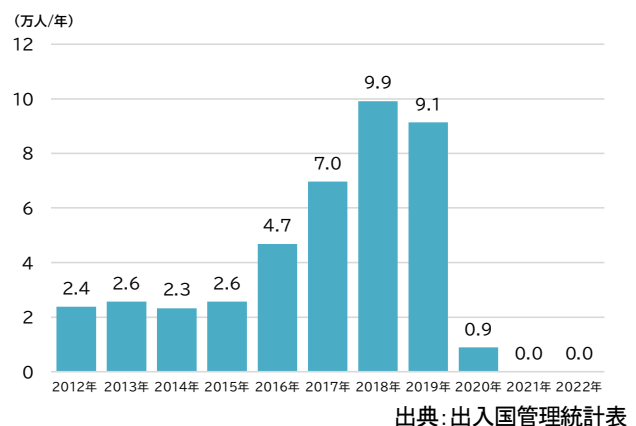


図2-5 岡山空港の外国人入国者数の推移

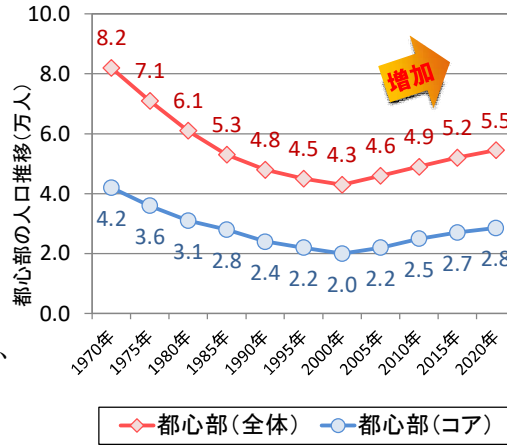
(4) まちづくりの動向

① 都心部の人口回帰

都心部の人口は2000年以降増加に転じており、現在は1985年の水準まで回帰しています(図2-6)。

都心部では、新市民会館「岡山芸術創造劇場ハレノワ」の整備が完成し、その他複数の地区で再開発が予定されており、まちづくりの動きが活発化しています(図2-7)。

都市の躍動感を創出し、住みやすさに磨きをかけるためには、これらのまちづくりと連動した交通政策の推進が必要となります。



◆都心部の範囲

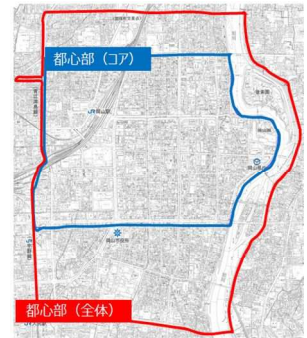


図2-6 都心部の人口回帰

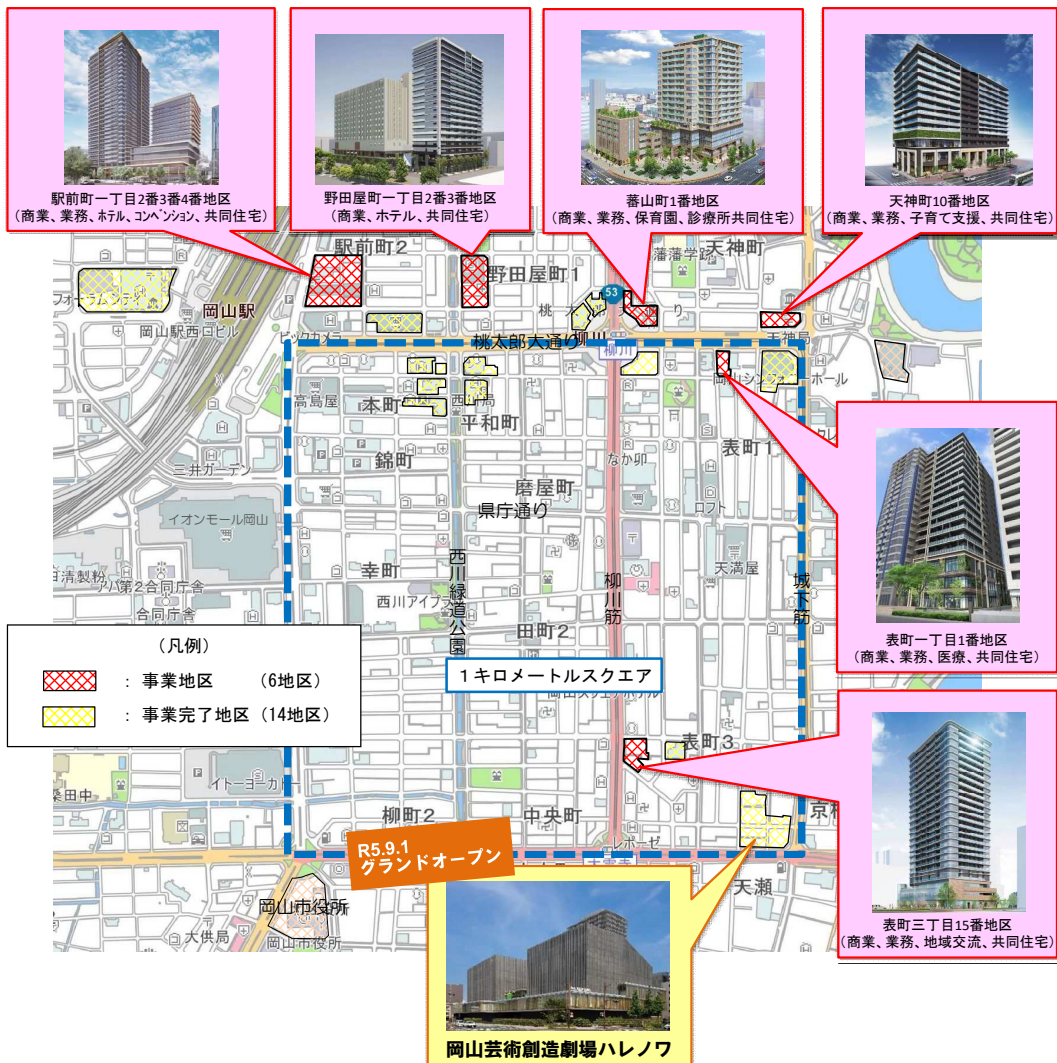
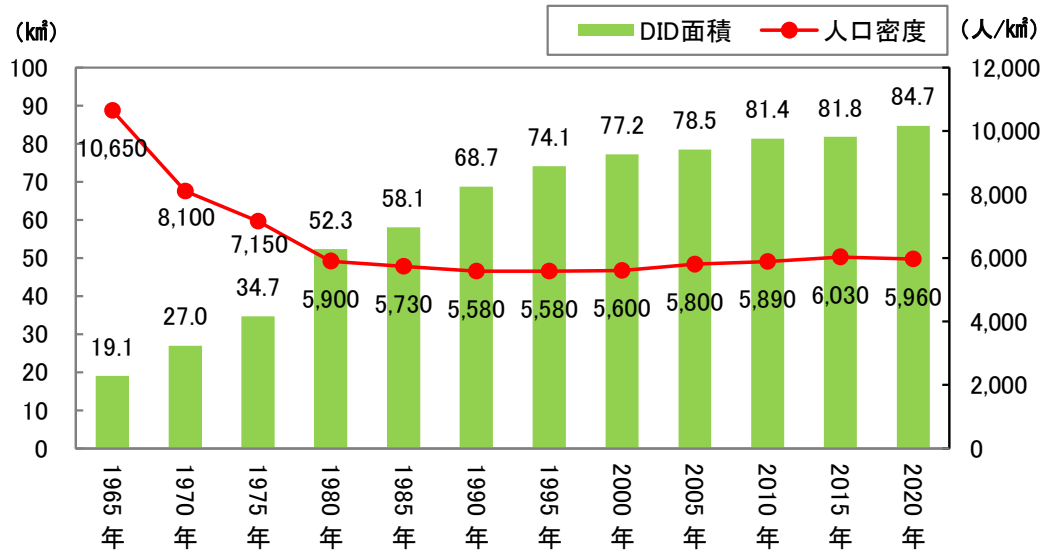


図2-7 市街地再開発事業の動向

② 低密度な市街地の拡大

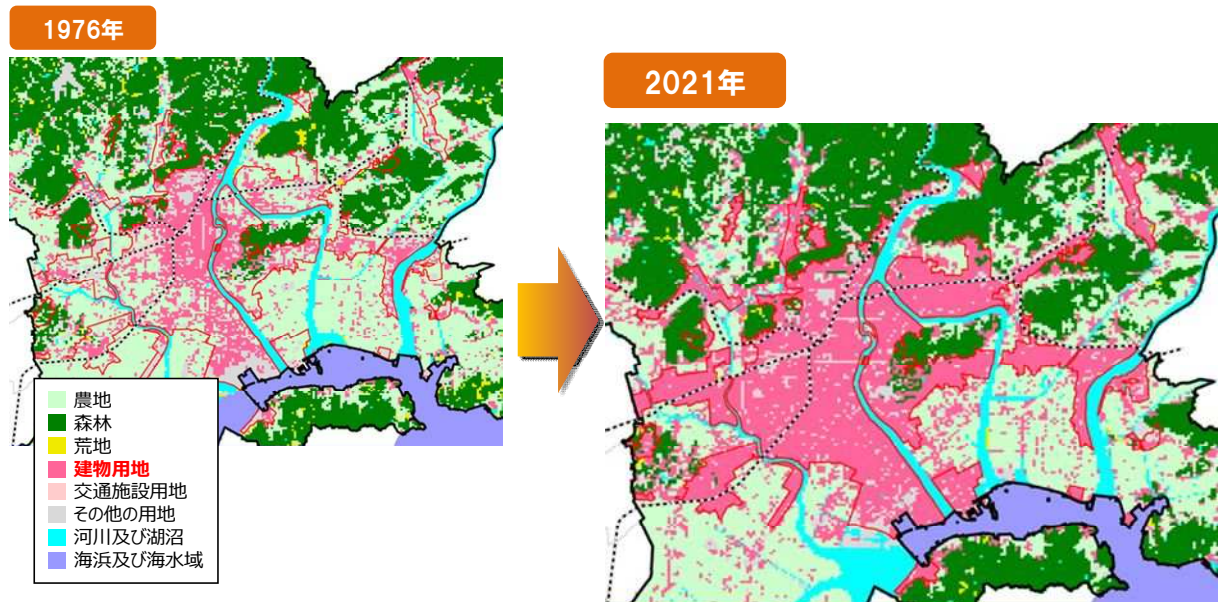
都心部で人口回帰が進む一方で、人口密度が40人/ha以上の人口集中地区の面積は、55年間で4.4倍に増加しましたが、人口密度は0.6倍に低下しており、モータリゼーションの進展に伴って、自動車での移動を前提とした低密度な市街地が拡大しています(図2-8、図2-9)。

このような過度に自動車に依存した都市構造により、公共交通の衰退や交通渋滞、温室効果ガスの排出等による地球環境問題など、様々な問題が生じています。



出典:国勢調査

図2-8 市街地の拡大と人口密度(DID地区)の推移



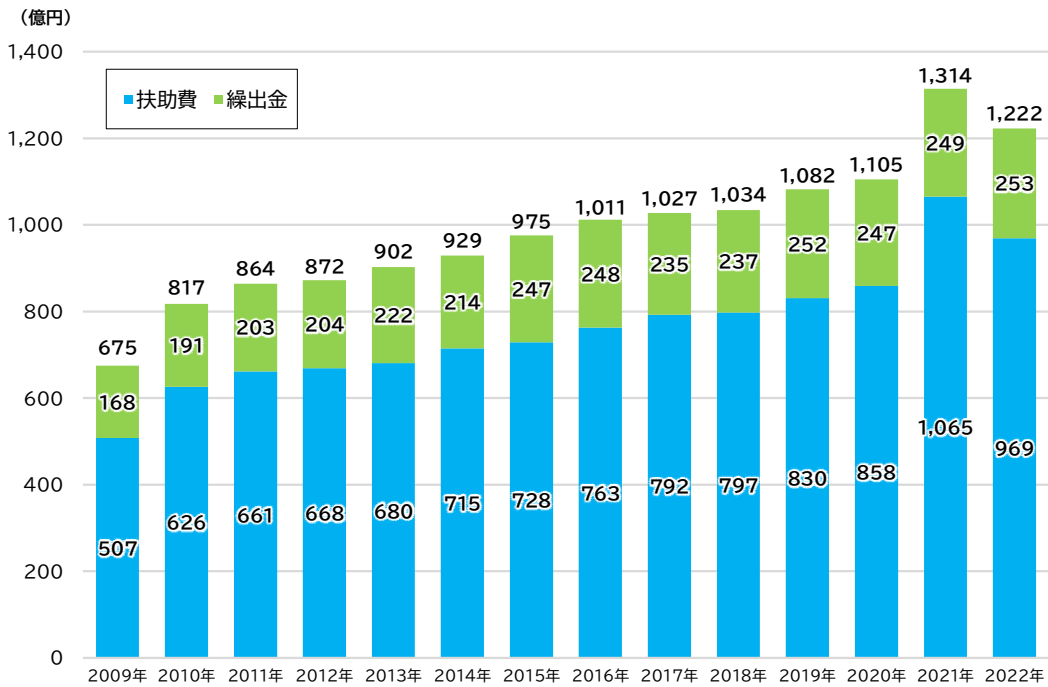
出典:国土数値情報

図2-9 土地利用状況の変遷(建物用地の拡大)

(5) 財政負担を緩和するための都市づくりと健康推進

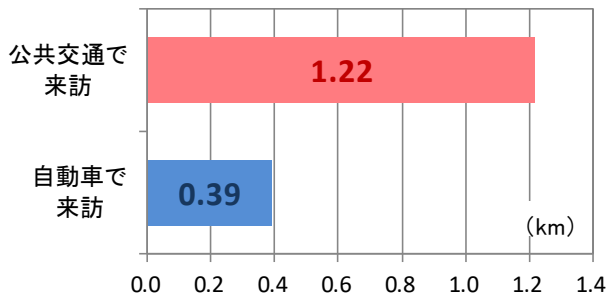
直近13年間で社会保障関係経費は約2倍に増加しており(図2-10)、これからの高齢化に伴い、さらなる財政負担の増加が予想されます。

公共交通利用は自動車利用よりも歩行量(運動量)が多いこと(図2-11)、また、健康増進により医療費の削減効果があることが示されており(図2-12)、コンパクトでネットワーク化された都市づくりにより、公共交通利用を促進することで、健康増進による社会保障費の削減も期待できます。



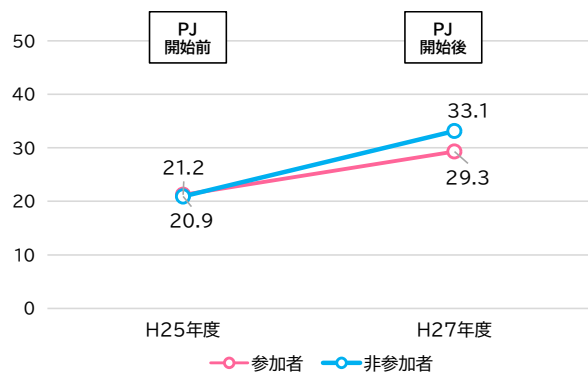
補助費:生活保護、児童手当、障害者関係経費、保育所関係経費など
繰出金:保険医療特別会計への繰出金(介護保険、後期高齢者医療、国民健康保険)
出典:岡山市の財政状況

図2-10 高齢化に伴う社会保障関係費の増加



出典:岡山市プローブパーソン調査(H29)

図2-11 都心の徒歩移動距離(休日)



「健幸ポイントプロジェクト」:
健康づくりに関する取組を実践することで、健幸ポイントをもらうことができ、商品券等と交換ができる取組(H26~28年度にかけて実施)
出典:岡山市ホームページ「健幸ポイントプロジェクト」

図2-12 健幸ポイントプロジェクト参加者と非参加者の総医療費比較